

島前合宿を終えて

島前とは島根県の隠岐諸島にある西ノ島、中ノ島、知夫里島の有人島とたくさんの無人島を合わせた名前である。私が島前合宿に参加した理由は、離島という場所に憧れがありどのような生活をしているのかまた自分の生まれ育った場所以外のコミュニティがどのようなものかを知りたかったからである。そして、離島という独自のコミュニティではどのようなことが困難なことか良いことなのか体験してみたいと思い参加した。また、島前でのまちづくりはどのように行われているのかを調査するためでもあった。合宿では4泊6日という長い旅でした。

一日目私たちは夜行バスで新宿から島根県の松江に向けて出発した。約12時間バスの中で寝苦しく快適に過ごすことができず疲れを残したまま松江駅に着いた。それから、七類港までバスに乗りお昼前に西ノ島に向けて出発した。西ノ島の別府港に着くとイカをモチーフにした活イカ活っちゃんの看板がありとても穏やかな島だった。そして、バスに乗り4泊もする若者宿に向かった。私の想像していた宿とは異なったが木をたくさん使っており落ち着いた雰囲気の良い宿でした。明日の中学校での出前授業の準備をした後、一時間くらいで海に出かけました。西ノ島の海はとっても綺麗で海底が透けて見えまし。暖かい気温だったので海の水が気持ちよく感じ、私がこれまで行った海の中で一番の海でした。宿に戻りみんなで一緒にカレーづくりをした。普通のカレーライスではなく島では有名なサザエカレーを作った。サザエをふんだんに使ったので普通のカレーではない食感や味がありルーをおかわりしてしまう程の美味しさであった。サザエも島の人からの貰い物だと聞き優し人たちが居ると分かった。

2日目は、西ノ島唯一の中学校に行き出前授業をした。大学生の生活や勉強の仕方などの質をされ答えるというような感じだった。島の中学校には大学がないので大学生自体がないと先生方から聞いたので大学生としてきちんと伝えることができるか不安だった。1対1でグループワークをした。私と一緒にグループワークをした中学生は将来のことについてまだはっきりと決まっておらず、どうすればいいかを私に聞いてきた。だが、私も中学生の時は将来どんな職業に就きたいなんて考えても決めきれなかったもので、曖昧な答えになってしまい中学生にとっていい影響を与えられたのか分かりませんが教えるという経験をするのができ良かったと思った。初めの自己紹介のときにはとても緊張し目を見て話すことができずでしたが、大学の生活や魅力を話してきちんと知ってもらいたいと思うと自分が今までどんな勉強をしてきたかなど、目を見て話すことができた。これまでで、自分が教えるという行為自体をしたことがなかったので貴重な経験になり伝える側の気持ちも気づくことができた。そのあと、昼食をグループワークで一緒だった中学生と一緒に食べた。久しぶりの給食で案外量が多く時間が掛かってしまったが、会話をしな

から食べることができ楽しかった。校舎が2学期から新しくなったので中学生に案内してもらい見学をした。木の匂いがして明るくわいわいしている学校が懐かしく感じた。授業が終わったあとに、先生方がお茶とスイカの差し入れをしていただいた。スイカは生徒たちが作ったもので甘く美味しかった。ここでも人の優しさと暖かさを感じることができた。午後からは、西ノ島で酪農をしている道前さんの牧場に行き牛たちの見学とお話を聞きました。島での主な産業は漁業と畜産業であり、畜産業の方は酪農ではなく牛を繁殖させて出荷することである。牛は島全体に放牧しており、出産や母乳の期間だけ牛小屋で飼育されていることや子牛を出荷するだけでなく成牛まで飼育して隠岐牛としてブランド牛として全国で売られている。ただし、隠岐牛を島で買うときは一度東京に出荷してから買い戻すので島の人だからといって安くは食べることはできないと知り畜産業をしているメリットはないなと感じた。道前さんの話は私にとって何の知識がなく質問を考えても浮かばなくて島についての事前学習が足りないと反省した。牛たちは生まれてから約半年くらいで出荷されていくので命の大切さを改めて感じた。そのあと、道前さんが島の案内してくれた。ろうそく岩、摩天崖、赤尾展望所など説明していただきながら回った。途中で馬が道路の真ん中に現れたときは驚いた。しかし、慌てて逃げる様子もなくとても可愛らしかった。牛や馬が逃げないのは住んでいる人々が大切に育てている証拠でありそこでまた島の人の優しさを感じた。夕食は、道前さんの家でバーベキューを頂いた。網の上にステーキや鯛が乗っていることに驚き感動した。肉、魚、野菜すべてが美味しかった。中でも飛騨牛は絶品でまた食べたと思った。バーベキューをしているとあまり話さない人でも会話ができて、このようにして輪をひろげていくのだと学んだ。あまりにも内容の濃い2日目だった。

3日目は、中ノ島の海士町で行われるキンニャモニャ祭りに参加した。島前で一番の盛り上がりだと聞いていたがそこまで期待していなかった。しかし、海士町に行くと島の人たちがたくさんいて、若い人も年老いた人も元気にキンニャモニャ踊りを踊っていた。踊りが特徴的で覚えるのに少々時間がかかったが私たちも飛び入り参加で踊った。なんと、歌と演奏はすべて生で驚いたが生演奏だからこそのアドリブなどもありすごく楽しかった。伝統を守っているということこそ自体が素晴らしいことで、この祭りをこれからも続けて欲しいと感じた。踊りの後、近くの海で打ち上げられる花火をみんなと一緒に観た。とても近いので音の迫力も比べ物にならず圧巻であった。ラストは迫ってくるような感覚になるくらい迫力であった。これまでに観た花火で一番感動した。その日は、星がたくさん出ていた。島の人にも驚くほどの星だった。皆で赤尾展望所まで行き星を見た。星を遮るものはなにもなく無駄な明かりもないので三百六十度の眺めは最高だった。流れ星も五つ程はしっかりと見ることができ昔に戻った感覚がした。

4日目は、自由に島を散策した。友達二人で海士町に行った。あいにくの雨で途方に暮れていたがたまたま海士町出身の同級生にあった。同級生の友達と一緒に島を案内してくれた。隠岐神社、明屋海岸、木路ヶ崎灯台、隠岐島前高校など中ノ島のすべてを観光する

ことができた。海士町でも牛を放牧しているので、いたるところに牛がたくさんいた。隠岐神社では、後鳥羽上皇のお墓や歴史のふれ勉強になった。一番楽しかったのは木路ヶ埼灯台のふもとに居た牛だった。島の先端に灯台があるのでどのように牛がたどり着いたのか謎であった。海士町にいる牛も人を見ても逃げなかったのでやはり大切に育てられていると感じた。島での暮らしも少し教えてもらった。学校の授業で牛の耳に着けてある個体識別番号を自分たちでつけるという島独特の授業があると知った。そのようにして命の大切さを教えているのだと感じた。傘がなかった私たちに快く貸してくれたり、傘のなかに入れてくれたり助けてもらってばかりの島観光であった。

5日目の朝、帰る予定だったが船が欠航するという知らせがきた。午前中は西ノ島の役場に行きまちづくりについてお話しをしていただいた。「人の集う島へ」KEEP3000を基本構想として掲げており、「1 資源を生かして働く 2 助け合い健やかに暮らす 3 自然とともに暮らす」を3つの方策としている。水産業が島の産業を占めており特産加工品開発に取り組んでいて、稚魚の放流などの活動を通して自然資源を守っていく活動を続けている。特にイカのまちづくりを行おうと考えており、活イカ 活っちゃんというイメージキャラクターをつくり他の町に宣伝しようと考えている。これから隠岐諸島を訪れる人が増えていくことを願う。夜には島の人のお家にお邪魔させていただき、お寿司をご馳走していただいた。島だからこそのつながり、高校生の時から親の元を離れて暮らすことの難しさ、近所の人との関わりかたなどの意見を聞くことができとても勉強になった。この日に東京に帰っていたとしたらこのようなつながりはなかったので、不思議な感覚になった。

6日目、朝早く起きて宿を掃除して別府港に向かった。フェリーで地元の人が見送りをしてくれた。島での楽しかった思い出を一気に思い出して悲しくなった。その感情と同時にまた行きたいという気持ちが芽生えた。特急列車と新幹線を乗り継いで夜に東京に着いた。疲れたがとてもいい思い出になった。

この合宿を終えて、自分だけの地域のコミュニティだけではなく日本全国にはその地域ならではのつながりや関係性があると感じた。考え方の視野を広げることができた。